今和 0年度	教科専門試験	百年学坛	(本転)	AZ 欠 石川	(1th n 5 t	1)
つれる年度	教 件 界 門 祇 腴	高寺子仪	(央部)	胜合例	(4枚のうら	\mathcal{L}

受験	뇹	教科	英	受験			得		
校	高	科	語	番			占	,	200
種		目	甲口	号			点	,	200

I 1 2 3 4 エ イ ウ エ

(4点×4)

1 2 3 4 ア イ ア ア

(4点×4)

III 1 2 3 4 ウ エ イ イ

(5点×4)

IV

II

	記号	修正
1	イ	that
2	ア	called
3	ア	expression
4	イ	reach
5	イ	crucial

(4点×5)

令和8年度 教科専門試験 高等学校(英語)解答例(4枚のうち2)

受験	괍	教科	英	受 験			得	
校	高	科	≑ ∓.	番			占	
種		目	語	号			点	

V (1) (2) (3) (4) (5) オ ア キ エ ウ

(4点×5)

VI

1	2	3	4
1	Н	ウ	ウ

_ (5点×4)

VII

1	① flexibility
1	2 employability
2	工
3	We are likely to feel comfortable knowing that they have the same opinions as others.
4	I could prepare some topics for the class to allow each student to choose their own topic for a presentation based on their interest.
5	1

令和8年度	教科専門試験	高等学校	(英語)	解答例	(4枚の)	うち3)	,
13 / 14 O T / X		ᄜᅲᅚ	() ()	71 P 7	- 、 ユ / 人 ^ / . .	, ., 0 ,	

受験	高	教科	英	受験			得	
校	向	科	語	番			占	
種		目	甲口	号			点	

VIII

In my future high school English class, I want to use technology to make lessons more interactive and engaging. For example, I can use digital games and online quizzes to review vocabulary and grammar in a fun way. One benefit is that students can enjoy learning more and feel motivated to participate actively. However, one challenge in the classroom is that some students may get distracted by other apps or websites. This can reduce their focus and make it harder to manage the lesson smoothly. To solve this, I will set clear rules and use tools that help monitor student activity carefully. I believe that with good planning and support, technology can make classes more exciting and effective for everyone.

(120 Words)

令和8年度 教科専門試験 高等学校(英語)解答例(4枚のうち4)

受験	高	教 科	英	受験			得	
校 種	向	科目	語	番号			点	

IX

(A) <u>日常的</u>	
(B) <u>即興</u>	
(C) <u></u> 聞いたり	
(D) <u>根拠</u>	
(E) <u>自分自身</u>	

(2点×5)

文法事項の指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものである ことを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別など の指導が中心となったりしないよう配慮し,使用する場面や伝えようとする内容 と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう に、効果的な指導を工夫することが必要である。

文法的な正確さだけを求めたり、コミュニケーションの文脈から切り離して、 個々の文法事項をどれだけ理解しているかといった観点で評価したりすること は、生徒が文法事項を実際のコミュニケーションの場面において、誤りを恐れず に活用しようとする態度を委縮させてしまいかねないからである。

実際の指導においては、まずコミュニケーションを行う目的や場面、状況など を設定した上で、それぞれの言語活動に必要となる文法事項を提示して、実際の コミュニケーションにおけるその文法事項の活用の必然性に生徒が気付くような 指導を行っていくことが重要である。

(20点)